

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○2、3年生の国語の記述式の問題において、昨年度の同集団は無解答率が1～3割程度だったが、今年度は1～2割程度になっている。
○1、3年生の数学は、図形領域が全国平均正答率と比べ上回る。
○2年生の英語は、聞くことは全国平均正答率と同程度であるが、それ以外は全て全国平均正答率を大きく上回る。
●2、3年生の国語は、要約する力が全国平均正答率と比べて大きく下回る。
●3年生の数学は、図形領域は全国平均正答率を上回るが、それ以外の領域(数と式、関数、データの活用)は下回る又は大きく下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○基礎問題の正答率は、全国平均正答率より大きく上回っている。 ○短答の正答率は、全国より大きく上回っている。 ●全国平均正答率と比べ漢字を書く問題は大きく上回り、文章を書く問題はやや上回るが、約2割程度の生徒が無解答である。	□振り返りや短文作りなどの書くことの時間を多く確保するとともに、どれが主語、述語、修飾語となっているかという文の構造についても問いかけを行う機会を多くもつ。
	2年	○「知識・技能」および「思考・判断・表現」の各観点において、全国平均正答率と比べてやや上回る。 ○記述問題の無解答率が昨年度(同集団)よりも減少し、1.5割程度となっている。 ●「書くこと」(記述式)の領域において、読み取った内容を要約する力が全国平均正答率を大きく下回っている。	□文章を読んで要約し、それに対して自分の考えを書く活動を増やし、習慣化させる。
	3年	○「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均正答率と同程度である。 ○「書くこと」の領域では、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力が、全国平均正答率と同程度である。 ○記述問題の無解答率が昨年度(同集団)よりも減少し、1～2割程度となっている。 ●「読むこと」の要約する問題によっては、全国平均正答率を大きく下回っている。	□小説以外のジャンルの本や新聞等を読んで要約し、自分の考えと比較し深めることを習慣化させる。
数学	1年	○図形領域とデータの活用領域について、全国平均正答率より上回る。 ○数と計算領域について、全国平均正答率よりやや上回る。 ●割合における記述問題では、全国平均正答率より大きく下回る。	□割合の意味や百分率について、授業中の問いかけや小テストで再確認させる。
	2年	○活用問題について、全国平均正答率よりやや上回る。 ○関数領域について、全国平均正答率と同程度。 ●1次方程式の問題では、全国平均正答率を大きく下回る。文章から立式すること及び1次方程式を解くことが全国や他の問題と比べてできていない。 ●平面図形の問題は全国平均正答率を下回る。	□方程式や文章が表している関係式を立てる小テストなどを継続的に行う。 □平面図形分野の授業において、1年時の復習を意図的に行う。
	3年	○図形領域について、全国平均正答率を上回る。 ○思考・判断・表現を問う問題において、全国平均正答率と同程度。 ●目的に応じて式を変形をしたり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題が、全国平均正答率と比べて大きく下回る。 ●データの活用領域について、全国平均正答率を大きく下回る。 また、複数のデータの分布から四分位範囲を比較する問題が、全国平均正答率を大きく下回る。	□知識技能に関する学び直しの機会を授業時や課題を通して意図的に行う。 □関数分野やデータの活用分野の授業において、2年時の復習を意図的に行う。
英語	2年	○聞き取って書く以外の記述式問題の正答率が、全国平均正答率を大きく上回る。 ○「読むこと」及び「書くこと」は、全国平均正答率を大きく上回る。 ●記述式問題で、問題によっては約2～3割の生徒が無解答である。 ●「聞くこと」は、全国平均正答率と同程度である。	□毎回の授業の帯活動で、聞く活動を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○話し合いで、相手の考えをしっかりと聞き取っている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○2年生は、学習を振り返る活動を毎日行っていたと思う生徒の割合が、1年時に市と同程度だったのに対して、今年度は大きく上回る。 ●1年生は、学習を振り返る活動を毎日行っていたと思う生徒の割合が、市に比べて大きく下回る。 ●2年生は、授業中に「学習のめあて」が黒板などに示していると思う生徒の割合が、市に比べてやや下回る。	○出雲市授業改善推進研究校(R4～R6)として、全校体制で授業改善に取り組む。 □教科部を中心とした授業参観と協議を行う。 □単元及び1時間単位のゴールを明確にし、それを生徒と共有する。 □自分の思いや考えを表現する言語活動の充実を図り、各教科の資質・能力の育成を図る。 ○単元ゴールや本時の目標(めあて)を生徒と共有して(提示する等)授業に取り組む。 ○振り返りを行う際には、めあてに対して何が理解でき、何ができるようになったのかを考えるように指導する。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合は、全学年において全国に比べて大きく上回る。 ○自分で時間を決めて、テレビを見ている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●3年生の1日2時間以上勉強している生徒の割合は、全国を大きく下回る。 ●自主的な学習(辞書、参考書や問題集の活用)に取り組む生徒の割合は、1年は全国に比べて大きく下回る。	○定期テストに向けた取組 □学習計画を立て、その取組を振り返る機会を設ける。 □面談等で定期テストの取組を保護者と共有し、家庭と連携して生徒を支援する。 ○「すこやかチャレンジ」の実施 □起床及び睡眠時刻、朝食の内容、メディア時間について、生徒自身が目標を設定し、振り返る週間を年4回設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生は、自己肯定感に関わる項目(自分のことが好き、自分は友だち・家の人・先生から認められていると思う生徒)の割合が、全国に比べて大きく上回る。 ●3年生は、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が、県及び全国に比べて大きく下回る。 ●3年生は、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が、全国と同程度だが、県に比べて下回る。	○総合的な学習の時間の充実 □地域のことを調べたり、自分たちができることを考えたりして、学校で学んだことが社会に役立つことを実感するような学習を展開する。 ○情報提供 □関係機関との連携を図り、地域の行事やボランティア活動等を生徒に紹介する。 ○キャリア教育の充実 □特別活動や道徳をとおして、自己を見つめ、生き方を考える機会を多く設ける。 □キャリアパスポートをもとに、自己目標を設定し、振り返る時間を設ける。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】
○国語と数学の両教科において、全国平均正答率と同程度またはやや上回っており、概ね良好な状況である。
●数学において、問題文を正確に読み取ることに課題が見られた。
【市学力調査:中1・2対象】
○すべての教科において、全国平均正答率とほぼ同程度であり、概ね良好な状況である。
●いずれの教科においても、自分の考えをまとめて記述することに課題が見られる傾向にあった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「書くこと」の領域に関する問題の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●漢字の問題に課題が見られた。	□授業の中で継続的に漢字テストを実施する。
	2年	○どの領域も正答率が全国平均と同程度か、それ以上であった。 ●自分の考えを記述する問題に課題が見られた。	□授業の中で、自分の考えを形成する場面を意図的に設定する。
	3年	○どの領域も正答率が全国平均と同程度か、それ以上であった。特に「書くこと」については、全国平均を大きく上回った。 ●「話すこと・聞くこと」の領域に関する問題にやや課題が見られた。	□授業の中で「話すこと・聞くこと」に関する課題を意図的に設定する。
数学	1年	○「整数の性質」「平面図形」「単位量あたりの大きさ」の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●「比と比例・反比例」「データの活用」「いろいろなグラフの読み取り」の正答率は全国平均を大きく下回った。 ●記述形式の解答に、やや課題が見られた。	□各単元の学習の中で、これまで学んだ内容が復習できるような授業づくりをする。 □データの活用やグラフの読み取りを伸ばすために、普段の授業から読み取ったり聞き取ったりする学習活動を大切にする。
	2年	○どの領域も正答率が全国平均と同程度か、それ以上であった。特に「文字式」の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●説明を記述する問題で無解答の割合が高く、課題が見られた。 ●比例の式からグラフをかく問題に課題が見られた。	□繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の定着をはかる。 □説明のパターンを繰り返し練習したり、根拠を軸にして文章を組み立てる練習をしたりする。
	3年	○どの領域も正答率が同程度か、それ以上であった。特に図形領域の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●「数と式」の基本的な計算については概ね習熟できているものの、読解力が十分でないため正答できなかった様子がうかがえた。	□さまざまな出題形式の問題に取り組むことで、読解力や多様な見方・考え方を養う。 □個別の指導・支援を充実させることで、苦手意識を払拭する。
英語	2年	○英文を聞いたり読んだりして、必要な情報や話の概要を捉える問題の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●文構造や文法事項の理解に課題が見られた。 ●情報に基づいて正確に書く問題の正答率が全国平均を大きく下回った。	□授業の中でALTやICT機器を活用し、様々な英語に触れる機会を確保する。 □学んだ文法事項を活用しながら、場面やテーマに沿って考えをまとめるライティング活動を授業内に計画的に設ける。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができると回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回った。 ●授業で学んだことを実生活に結びつけて考えることに課題が見られた。 ●自分と違う意見について考えることは楽しいと回答した生徒の割合が全国平均をやや下回った。	□身近なものをつなげて考えることのできる課題を設定し、勉強の必要性を実感できる授業づくりをする。 □多様な答えが出るよう発問を工夫し、議論しながら考えを深める授業づくりをする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家の人から言われなくても、計画を立てて学習に取り組んでいる生徒が多い。 ●家庭学習の時間については、長時間する生徒と全くしない生徒の二極化傾向にある。	□一人一人の学習状況に合わせた課題になるよう、出題方法を工夫する。 □家庭学習にもICT機器を効果的に活用する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○郷土愛が比較強い傾向にあり、家の手伝いをする生徒が多い。 ●新聞や読書など活字を読む機会が減っており、SNSなどインターネットの利用に多くの時間を費やす生徒が多い。	□ふるさと学習を継続して進め、地域連携を深める。 □朝読書の時間を確保したり、集会等で時事ニュースに関する新聞記事を紹介したりするなど、新聞や書籍を通して社会との関わりを学ぶ機会を積極的に設ける。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第三中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生国語の平均正答率は、市よりやや下回り、全国とは同程度である。
- 2年生国語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 3年生国語の平均正答率は、県、全国と同程度である。
- 1年生数学の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 2年生数学の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 3年生数学の平均正答率は、県とは同程度であるが、全国より下回る。
- 2年生英語の平均正答率は、市、全国より下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○『知識・技能』については、「漢字の読み」「文法・語句に関する事項」において全国正答率を上回っている。 ○「報告する文章を書く」については「書く」の内容でも全国平均を上回っている。 ●「文学的な文章の内容を読み取る」と「文章を書く」という問題の内容については、全ての項目について全国正答率を下回っている。	□毎月取り組んでいる月例漢字テストに引き続き取り組み、基礎・基本となる漢字の力を高めていく。 □文学的な文章を読む学習では、場面を取り上げてペアワークや話し合い活動をし、内容理解を高めるようにする。 □文章に書き慣れるために、自らの考えをノートに書いたり、授業のふり返り際には短い文で考えを書き残したりするようにする。
	2年	○『漢字の書き』の問題については、すべての項目で全国正答率を上回っている。 ○「文章を書く」問題については、すべての項目で全国正答率を上回っている。 ●文法に関する事項や、説明的文章の内容を読み取る項目についてはすべての項目で全国平均を下回っている。	□単元の中で、語句に関する復習ができる時間を取る。古典の内容については、改めて復習をする時間がとれないので、新単元の際に復習する時間を必ずとる。 □説明的文章の学習で出てくる語彙を整理し、小学校の説明的文章を使いながら、学習用語をもう一度確認する。 □文法の事項の中で、「単語」の理解について正答率が大きく下回っているため、国語辞書を使う際には、単語を意識させる。
	3年	○『知識・技能』については、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を上回っている。 ○『思考力・判断力・表現力等』では、「読むこと」が全国平均を上回っている。 ●『知識・技能』の「言語の特徴や使い方に関する事項」、『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国平均を下回っている。	□授業の単元の初めに「言語の特徴や使い方」について確認するとともに、授業の中で表現技法や文法事項の復習を適宜行っていく。 □授業において「話す聞く」の教材を学習するとき以外にも、自分の意見や振り返りを発表させる場面を設定する。 □単元のレポートや授業の振り返りの仕方を工夫して、自らの考えを書かせる機会をとる。
数学	1年	○全国平均と比較するとやや上回り、市平均とほぼ同程度である。 ●『知識・技能』では文字の値を求めること、等しい比を求めること、ドットプロットから中央値を読み取ることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、ヒストグラムの読み取りや、割合を活用して説明することに課題がある。	□文字の値、比、グラフの読み取りについては、関連の学習に応じて復習を丁寧に行い、繰り返し練習しながら定着を図るような指導を行う。 □自分の考えを式や表・グラフを活用して説明する問題を積極的に取り上げ、数学的な表現を使った説明に慣れさせる。 □問題演習や小テスト等を活用したドリル学習で理解の定着を図る。個別指導を行うとともに主体的な学習に向かえるよう助言を行う。 □家庭学習では、自学ノートに加えてタブレットドリルを活用する。
	2年	●全国、市平均と比較するとやや上回っており、活用や思考・判断・表現の差が大きい。 ●『知識・技能』の中で、文字で立式すること、反比例の値の変化の理解や球の表面積を求めること、度数分布表から相対度数を求めることや分布の範囲を求めることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、方程式や比例の文章題、データの分布から傾向を読み取ることや、それを根拠にして説明することに課題がある。	□文字式の基本となる同類項の計算を復習する、1次関数の単元で比例のグラフの復習をするなど、前年度の復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていけるような指導を行う。 □めあてをもち、1時間の授業を見通しをもって取り組めるようにする。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認する機会を持つようにする。 □学び直しの機会を意図的に設け、既習事項の定着を図る。 □デジタル教材を活用する。
	3年	○全国平均と比較するとやや下回り、県平均と同じである。 ●『知識・技能』では、文字を用いて数量を表すことや四分位範囲の読み取りに課題がある。 ●『思考・判断・表現』では、式やグラフを用いて説明することや四分位範囲や箱ひげ図を比較して説明することや証明問題の正答率が低いことに課題がある。	□授業の最初に小テストを実施して、計算の技能の習熟をはかる。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認したり、復習をしたりする機会をもつようにする。 □数学的な表現を用いて説明したり、証明したりすることに慣れるために、習熟度に応じて条件を変えて演習を行えるよう工夫する。 □学び直しの機会を意図的にもうけて理解の定着を図る。 □デジタル教材を活用する。
英語	2年	●全国平均や市平均と比較すると、やや下回っている。 ○語彙、語法などの基礎基本の内容の正答率は全国平均と同程度である。 ●長文の要点や必要な情報を読み取ることに課題がある。 ●聞くことの基本的な力はあるが、対話の概要を捉えて適切に応答することの聞き取りでは、全国を下回り、課題がある。 ●与えられた条件でまとめた英文を書くことに課題がある。	□基礎基本を身につけるための学習を従来通り行う。 □さまざまなリスニングの形式に慣れさせ、要点等を捉える練習の機会を持つようにする。 □授業で、さまざまな英文の読み取りをし、自分の意見を書くような学習を行う。 □英作文をする活動の中で、3文以上の作文や正確に書くといった活動を継続的に取り入れる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付くことができる。」の割合が高い。 ○「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む。」の割合が高い。 ○昨年度より、「発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫する。」「学習内容を実生活に生かす。」の割合は改善された。 ●「授業中のPC利用」「授業中PCで調べる。」の割合が低い。 ●「学習の見直しを次の学習につなげる。」の割合は高くない。	□課題解決における話し合い・学び合いの意義を理解し、意欲的に取り組める生徒の割合が多いので、それをいかし、深い学びにつながるような授業展開を工夫する。 □「総合的な学習の時間」をはじめとした全教科で、今以上にPCなどを活用した情報収集・情報活用能力を高め、自分の考えを発表する場面を増やす。 □授業の「ねらい」の提示と「ふりかえり」の実施を徹底し、自らの学びを、次の学習や他の学習につなげる意欲を高めていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」の割合は全国と比較して高い。 ○平日の学習時間で1時間以上している生徒の割合は県より高く、全国より低い。 ●勉強に、図書館や辞書を活用している生徒の割合が全国に比べて低い。	□生徒の実態に合った適切な学習課題を提供するとともに、家庭学習への取組が授業の理解につながることを意識して、授業改善を行う。 □望ましい学習習慣につながる学習方法を生徒の実態に合わせ、助言する。 □授業の中で、図書を通して学びが深まったり、自分の世界を広げたりする経験を積み重ねさせ、自ら図書に親しみ、活用する意欲を高めていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」の割合が、県、全国より高い。 ●地域の行事に参加している割合は、県、全国より若干低い。	□保護者やコミュニティセンター等地域の理解や協力のもとに、一層の連携を図り、「総合的な学習の時間」を中心に、地域資源「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域に貢献する意義を理解し、かつ意欲を高めるような学習活動を設定する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の学力調査では、2教科とも全国平均正答率を大きく上回る。
○2年生の学力調査では、国語・数学は全国や市の正答率を上回る。
●3年生の学力調査では、2教科とも全国や県の正答率を下回っており、特に数学は大きく下回る。
○1、2年生の学習状況調査では、「家の人から言われなくても進んで勉強している」、「自分で計画を立てて勉強している」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回る。
○3年生の学習状況調査では、学級活動や道徳の授業で積極的に話し合い活動に取り組み、自分の考えを深めたり互いの良さを認め合ったりする生徒の割合が全国平均を上回る。
○全学年の学習状況調査で、就寝、起床時刻や朝食をきちんと食べているなどの生活習慣が身につけている生徒が全国平均と同程度または上回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○領域別、観点別、全て全国平均を上回る。特に「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」の問題は全国平均を大きく上回る。 ●問題別では、「漢字を書く」の正答率が半数だったことから、漢字を正しく覚え、活用する力に課題があると言える。	□学習した新出漢字を使って作文するなど活用する機会を増やす。 □月例漢字テストに向けての学習を通して、漢字を正しく覚える練習方法を身につけられるようにする。
	2年	○領域別、観点別、全て全国平均を上回る。特に「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の問題は全国平均を大きく上回る。 ●問題別では記述式問題の正答率が低いことから、文法を正しく使い活用する力に課題があると言える。	□文法や語句について調べたり小テストを行ったりして定着を図る。 □文章を考えて書いたり推敲したりする機会を増やす。
	3年	○「話すこと・聞くこと」は全国平均とほぼ同程度である。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を大きく下回る。語彙や言葉の知識不足が想像され、それらが十分ではないために「読むこと」、「書くこと」においても困難さがあると言える。	□漢字や文法など言語に関する学習を繰り返し行ったり、言葉に関する知識を紹介したりする。 □多様な表現に触れる場面を設けたり、学習のまとめや振り返りなどを通して学んだことを表現する活動を設定したりする。
数学	1年	○領域別、観点別、全て全国平均を上回る。特に「基礎」、「知識・技能」の問題は全国平均を大きく上回る。 ●問題別では、「百分率」の記述式問題の正答率が半数以下である。百分率の計算だけでなく、それを用いて説明することに課題があると言える。	□「文字と式」、「平面図形」は、それぞれの単元の学習の最初に既習事項を復習し、定着できるようにする。 □説明する問題は、いろいろな単元の学習の活用問題を行う中で取り入れ、百分率や数学用語を用いて論理的に記述できるよう指導していく。
	2年	●4つの領域のうち、「関数」の領域で全国平均を下回る。 ○問題別では、「データの分布の傾向」が全国平均を大きく上回る。 ●「1次方程式」の問題では、立式して1次方程式を解くことに課題があると言える。	□小学校、中学校1年で学習する比例・反比例と関連付けながら関数の学習を進めていく。 □文章問題から必要な情報を選択することや立式する機会を増やすことで、数学的に解釈し処理する力の定着を図る。
	3年	●全ての領域で全国平均を大きく下回る。 ○問題別では、「正の数、負の数の計算」が全国平均と同程度、「一次関数のグラフの意味」が全国平均を上回る。 ●データを比較して説明する問題や図形の証明問題で無解答率が高く、筋道を立てて考えることに課題があると言える。	□1、2年で学習した内容について、「方程式」、「関数」、「図形」には系統性があるため、導入部分で既習内容の復習をしてから新たな内容につなげていく。 □「証明」については、「合同な図形」から「相似な図形」に進めていくが、基本的な考え方は同じであるため、根拠となる事柄を意識させ、筋道を立てて説明できるよう丁寧に指導する。
英語	2年	○「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均と差は見られない。 ●「書くこと」は全国平均と同程度であるが、半数以下の正答率である。	□帯学習などで単語や基本文型の反復学習の機会を設定し、既習事項と新出事項をつなげる指導をしていく。 □ある程度まとまりのある文章を読んだり、書いたりする活動を通じて、話の展開や構成を理解し、表現していけるように指導する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生で「総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回り、各々が探究課題に熱心に取り組んでいることがうかがえる。 ●3年生で「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく下回る。 ●1年生の数学、2年生の国語、数学、英語において、「分からないことがあれば先生に質問をしている」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく下回る。	□各教科で適宜グループ活動を取り入れて様々な考え方を共有する場面を設ける。 □教師が生徒の理解度やつまずきを振り返りシートなどで確認したり、ICT機器を通して生徒が質問しやすい環境を整えたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1、2年生で「家の人から言われなくても進んで勉強している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、家庭学習の習慣がおおむね身につけていると考えられる。 ●1、2年生の国語、数学、英語の各教科において、「授業のために予習をしている」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく下回る。 ●3年生で学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上家庭学習をする生徒の割合が全国平均を大きく下回る。	□放課後等を利用して、生徒が主体的に学習できる場を確保する。 □各教科で、生徒が興味・関心を抱き、自ら考えたり、調べたりするなど、主体的に学習できるような宿題や課題を課す。
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	○1、2年生で「学校での出来事を、家の人に話している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回り、家庭でしっかりコミュニケーションを取っていることがうかがえる。 ●1、2年生で「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合が全国平均を下回る。しかし3年生の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく上回るため、地域に貢献したい気持ちはあるが、それを行動に移せていない生徒が多いと考えられる。	□総合的な学習の時間に行っている職場体験学習や防災・減災学習での取組を、積極的に地域に発信する場を設ける。 □地域のボランティア活動や行事など、生徒が意欲的に参加できるものについて、積極的に情報提供を行ったり、参加を促したりする。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語は、市、全国ともに平均正答率と同程度である。
 ●1年生の数学は、市の平均正答率を下回り、全国の平均正答率をやや下回っている。
 ○2年生の国語と数学は、市、全国ともに平均正答率と同程度である。
 ●2年生の英語は、市の平均正答率を下回り、全国の平均正答率を大きく下回っている。
 ●2年生の数学と英語の「思考・判断・表現力」の平均正答率は、全国の平均正答率に対し、大きく下回っている。
 ○3年生の国語は、県、全国ともに平均正答率と同程度である。
 ○3年生の数学は、県、全国ともに平均正答率を大きく上回っている。
 ○3年生において、「国語、数学、英語の勉強が好き」という質問に対して「当てはまる」という回答が、全国平均を大きく上回っている。
 ○「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、1年生は全国平均の割合をやや上回り、2年生と3年生は大きく上回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○文章を書く問題は、全国平均正答率を大きく上回っている。 ●インタビューの内容を聞き取るという問題のうち、「意図に応じて話の内容を捉え、適切な質問をしている」という点について全国平均正答率を下回っている。 ●漢字を書く問題のうち、「小学校で学習した漢字を正しく書く」という点について、全国平均正答率を下回っている。	□漢字の読み書きにおいては、全校で行っている漢字基礎力テストや授業での小テストを継続して行い、既習事項を含め着実に力が身につくようにしていく。 □意図に応じて話の内容を捉える力がつくよう、「聞き取り問題」の演習をする学習を定期的に行う。
	2年	○「読むこと」の領域において説明的な文章の内容を読み取る問題の正答率が、全国正答率を大きく上回っている。 ○「書くこと」の領域において、文章を書く問題の正答率が、全国正答率を大きく上回っている。 ●「話すこと」の領域においてスピーチする内容を具体的に記述する問題の正答率が、全国平均を大きく下回っている。	□「話すこと」において、聞き取った内容を要約したり、それを踏まえて自分の意見を書く課題作文をしたりする学習を定期的に行う。また、その作文を個別に添削する。 □知識・技能に関しては、全校で行っている漢字基礎力テストや、単元テスト等を継続していく。また、追試や補充問題を行い、着実に力が身につくようにしていく。
	3年	○「読むこと」の領域において文章と図を結び付けて内容を解釈する問題の正答率が、全国正答率を大きく上回っている。 ○「書くこと」の領域において、表現の効果を考えて自分の考えを書く問題の正答率が、全国正答率を大きく上回っている。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題の無回答率が、全国に比べてやや高い。	□「書くこと」において、短文を要約したり、課題作文をしたりする学習を定期的に行う。また、その作文を個別に添削する。 □知識・技能に関しては、全校で行っている漢字基礎力テストや、単元テスト等を継続していく。また、追試や補充問題を行い、着実に力が身につくようにしていく。
数学	1年	○比例・反比例の問題では全国平均正答率を上回っている。 ●百分率、データの活用の問題は全国平均正答率を大きく下回っている。 ●応用問題や説明する問題では無解答の割合が高い。	□小テスト、単元テストを継続していく。 □日常のものを題材として取り入れ、数学を身近に感じられるように工夫していく。 □授業内で自分の考えを根拠をもとに、説明したり書いたりする。
	2年	○数式領域の基礎の問題は全国平均正答率を上回っているか、同等である。 ●文章から立式する問題が全国平均正答率を大きく下回っている。 ●自分の言葉で説明する問題は半数以上が無回答である。	□計算練習などの家庭学習を継続していく。 □授業内で自分の考えを根拠をもとに、説明したり書いたりする。 □日常のものを題材として取り入れる。
	3年	○ほぼすべての設問において、全国平均正答率を上回り、合計点も大きく上回っている。 ○特に関数の領域については全国平均正答率を大きく上回っている。 ●唯一、小学校6年生で学習した最頻値を求める問題について全国平均正答率を大きく下回っている。	□毎時間取り入れている小テストを継続し、基礎基本の定着を徹底していく。 □毎時間の小テストの中に、小学校や中1、中2の学習内容も取り入れて、過去の既習事項の定着も徹底していく。
英語	2年	○対話文を読み、文構造や文法事項について答える問題(動詞の形、代名詞等)では、全国正答率を上回っている。 ●日常会話の話題のリスニングおよび長文の内容を読み取り、概要や要点を答える問題では、全国正答率を下回っている。 ●テーマにそって自由英作文する問題で、無回答が多い。	□単語テストや文型ドリルを継続していく。 □自然な場面設定のもとで、状況に応じた英語を使う言語活動を実施していく。 □英作文を書く活動を積極的に取り入れていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができる」「人が困っているときは進んで助けている」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っている。 ○「自分は、友だち・先生・家の人から認められていると思う」「自分のことが好きである」「自分の力をできる限り伸ばしたいと思う」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を大きく上回っている。 ●授業でICT機器を活用する頻度が、全国の割合に比べて大きく下回っている。	□教員の指導力向上のため、研究授業の実施やICT機器活用のための研修、ICTを活用した授業の実践共有等を行う。 □授業において、個人で思考する場面や学び合いの場면을効果的に取り入れて、課題解決型の授業を展開する。その際、考える視点を明確にし、対話的で深い学びになるような授業づくりをしていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」と肯定的に回答した割合が、全国平均を上回っている。 ●家庭学習において、参考書や問題集、辞書を利用している割合は、全国の割合を大きく下回っている。	□各教科で、家庭学習での課題を継続的に出し、学力の定着を図る。また、課題の内容の工夫に努める。 □定期テスト前の学習計画表を活用したり、生活習慣の見直しを学校と家庭で連携して行ったりして、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図る。
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	○「朝食、夕食を家の人と一緒に食事をとっている」「出かける時は、家の人に行き先を言っている」と肯定的に回答した割合は、全国の割合を上回っている。 ○3年生において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的に解答した割合が、全国の割合を大きく上回っている。 ●「本を読んでいる」「新聞記事を読んでいる」と回答している割合が、全国平均を大きく下回っている。	□学校・学年だより等を通じて、地域や保護者への情報発信を積極的に行う。また、地域学校運営理事会や学習公開日等でも、生徒会活動や部活動での生徒の様子を伝える。 □校内に新聞を設置したり、読書活動を推進する取組を行う。また、生徒会活動の中で、生徒が時事問題に関心を持つような取組を継続して行う。 □総合的な学習の時間や学校行事等を通じて、地域についてより深く学ぶことのできる学習活動を行う。 □生徒が地域で活動する機会をもち、地域の方に生徒を見ていただく。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【出雲市学力調査の結果】 ○1年生の国語の正答率は全国の平均正答率を大きく上回っており、出雲市の平均正答率を上回っていた。 ●1年生の数学の正答率は全国の平均正答率と同程度で、出雲市の平均正答率をやや下回っていた。 ●2年生の国語の正答率は全国・出雲市の平均正答率を大きく下回っていた。英語の正答率は全国・出雲市の平均正答率を下回っていた。 ○2年生の数学の正答率は全国・出雲市の平均正答率をやや上回っていた。 【全国学力調査の結果】 ○3年生の国語の正答率は島根県の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率をやや下回っていた。 ○3年生の数学の正答率は島根県の平均正答率をやや上回っており、全国の平均正答率と同程度であった。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全ての領域について、目標値を上回っている。その中でも、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」については、目標値を大きく上回る。 ●「文法・語句に関する事項」のうち、連用修飾語についての理解は目標値を下回っている。 ○●自分の考えを明確にして書くことができて一方、2段落構成で書くことは目標値をやや下回っている。	□文の成分の学習をする際に、小学校5、6年生の既習事項を確認し、中学校での学習内容と関連を図りながら進める。 □文章の構成のしかた、段落の役割について確認する。また、単元終末には、学習内容と関連づけた条件作文をする機会を設け、個別支援を行う。 □「話すこと・聞くこと」や「感想を共有し、自分の考えを広げる」について見られる理解度の高さを生かし、他者の様々な考えに触れる機会を継続的に設ける。
	2年	○●領域「書くこと」については、目標値を上回るが、他については、目標値を下回る。 ●「話すこと・聞くこと」では、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることをねらいとした問題について、目標値を下回る。 ●「情報の扱いに関する事項」では、情報同士の関係を理解し、相手の反応を踏まえながら表現を工夫することをねらいとした問題について、目標値を下回る。	□「書くこと」については、2段落構成で書くことについて、目標値を上回っていることを生かし、条件作文を書く活動を通し、自分の考えを明確にして書く力を高める。 □「情報」については、必要な情報に着目して、内容を解釈することはできているので、それを他者に伝えるための工夫を知り、考える活動を設ける。 □「話すこと・聞くこと」については、明確な自分の考えとその根拠を考える時間を確保し、話の構成を生かせるよう、事前確認・個別支援をする。
	3年	○領域「話すこと・聞くこと」は、県平均正答率を大きく上回る。話し合いの話題や展開を捉え、他者の発言と結び付けて考えをまとめる力が高い。 ●「書くこと」は、県平均正答率を大きく下回り、「読むこと」は、やや下回る。目的や意図に応じ、集めた材料を整理して書くことが苦手である。 ●「情報の扱い方に関する事項」について、具体と抽象など、情報と情報の関係の読み取りが苦手である。	□「書くこと」「読むこと」に共通して、複数の事柄を関連づけ、解釈や要約することが苦手である。今後は、文章と図との関係や、具体と抽象など、情報と情報の関係を解釈し、考えたことを作文する時間を設ける。 □文章全体を俯瞰的に読んで大まかに内容を読み取り、その内容を、話し合いや交流によって深め、意見文を書く時間を設ける。相手意識をもち、順序の入れ替えや言葉の言い換え、例示を加えるなどし、書き手の意図を自分の言葉で再構成できるようにする。
数学	1年	○領域「式と計算」は全国平均正答率をやや上回っている。「図形」、「変化と対応」は同程度である。 ○「分數・少数の計算」「面積と体積」「単位量当たりの大きさ」の正答率は、全国平均正答率を上回っている。 ●「基礎」は全国平均正答率と同程度であるが「活用」は大きく下回っている。「百分率」「平均・場合の数」「データの活用」はいろいろなグラフの読み取りの正答率も全国平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 □小学校の内容の学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
	2年	○「基礎」、領域「数と式」、「図形」、「データの活用」は全国正答率大きく上回っている、または上回っている。 ○「正の数・負の数」、「文字式」、「1次方程式」、「平面図形」は全国平均正答率を大きく上回っている。 ●「活用」は全国平均正答率をやや下回っている。領域「関数」、問題「比例・反比例」は全国平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。 □「関数」については学び直しをしながら既習事項と関連付けて学習を進めていく。
	3年	○領域「数と式」「関数」は、全国の平均正答率を上回っている。 ○観点「知識・技能」は、全国の平均正答率と同程度である。 ●観点「思考・判断・表現」、解答形式「記述式」は全国の平均正答率を大きく下回っている。 ●領域「図形」「データの活用」は全国の平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い」学習を通して、学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □「図形」については根拠となる事柄を確実に身に付け、必要な性質を使って証明や数値を求めることができるようにする。 □「データの活用」については、様々なデータを用いた事象を考える機会を作る。
英語	2年	○「聞くこと」は目標値をやや上回っている。 ●「語形・語法の知識・理解」、「語彙の知識・理解」のほとんどの間で目標値を下回る。 ○「情報に基づいて書く英文」「3文以上の英文文」で目標値を大きく下回る。また、3文以上の作文問題については無解答率が37%と高い。 ●観点別では「主体的に学習に取り組む態度」は目標値を大きく下回る。	□語彙の定着を図るために、毎時間単語の音読の時間をとり、週に1度、単語テストを実施する。 □語形・語法の定着を図るために、小学校や中学校1年生に学習した知識と関連づけながら指導する。 □読みに配慮したまとまりのある文章を書く力をつけるために、「配慮」の具体を考える時間や作文前に構成を考える時間を確保する。作文の際は既習事項がどのように使えるのかモデルを示す。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」、「話し合いで相手の話をしっかり聞き取っている」という生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ○「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして自分の考えを深めたり広げたりすることができた」という生徒の割合が出雲市に比べて高い。	□「考える」、「つながり合う」、「ともに伸びる」を意識した各教科での授業づくりを継続する。 □自分の言葉で考えや思いを語る場面を積極的に設定し、「学び合い学習」の取組を継続する。 □各学年月1回の「だんだんタイム」(アドジャン)を継続する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家の人に言われなくても、進んで勉強している」、「家では勉強する場所を決めている」、「自分で勉強の計画を立てて勉強している」、「勉強するときには集中して勉強している」生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ○「参考書や問題集を使って勉強している」生徒の割合が全国平均を大きく上回り、「家庭教師に来てもらっている」、「塾に行っている」生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。外部の指導に頼らず、家庭学習に取り組んでいるといえる。 ●家庭での学習習慣はおおむねついていると考えられるので、主体的な学びに結びつく家庭学習の仕方を工夫して必要がある。	□「さわやか週間」の実施や「生活ノート」の活用を継続する。 □各教科でガイダンスを実施し、家庭学習の内容ややり方を明確に示す。 □自主学習の取組を振り返り、より効果的なノートの使い方や学習内容について指導する。自分で工夫できない生徒については、個別に支援する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分の地域が好きである」、「地域の行事に参加している」生徒も生徒の割合が全国に比べて高い。 ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合が全国、出雲市に比べて高い。	□地域資源を生かし、3年間を見通した系統的な学習を実施する。 □道徳の時間や特別活動を通して、自己を見つめ、自己の生き方を考える機会を設ける。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○生徒質問紙の解答から、ほとんどの生徒が「学校好き」「地域が好き」と回答しており、「先生から認められている」「友達から認められている」「自分が好き」「自分に良い所がある」と回答した生徒も多い。
 ○家庭での生活習慣に関する調査の回答から、規則正しい生活を送っている生徒が多い。
 ●家庭での学習習慣に関しては、家庭学習にける時間が全国平均、市平均より少なく、平日のSNSやゲーム、テレビなどのメディアにかける時間が多い生徒が多い。
 ○授業への取組に関しては、ほとんどの生徒が授業をしっかりと聞き、ノートをきちんととっており、話し合い活動でも相手の意見を聞いたり自分の意見を述べたりすることができており、良好である。
 ○第1学年、第2学年とも、国語・数学・英語において、正答率が全国平均、市平均と同程度、またはやや上回っており、良好な状況である。
 ●第3学年では、国語では正答率が全国平均、県平均、市平均と同程度であったが、数学で全国平均を下回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	全体の正答率は、市平均、全国平均と同程度であった。基礎の部分では、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。活用の部分では、市平均、全国平均と同等であった。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項では、小学校で学習した漢字の下記の問題で市平均、全国平均を大きく上回った。 ○書くことに関して、文章の表し方に注目して文章を整える問題で市平均、全国平均を上回っている。	□継続して予習・復習の手立てとなる家庭学習の課題を出す。 □辞書を使って、語句の意味を調べたり、漢字を調べたりする機会を継続して設ける。 □ペア・グループ活動による話し合いによって得られた考えを、根拠に基づいて書く学習を継続して行う。
	2年	全体の正答率は、市平均、全国平均と同程度であった。 ○話すこと・聞くこと、書くことにおいて、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。 ●言葉の特徴や使い方に関する事項では、市平均、全国平均と同程度、我が国の言語文化に関する事項では、市平均を下回り、全国平均を大きく下回った。	□漢字テストにおいて、正しい字形を意識させる事前説明や返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。文法は1年時既習範囲の復習機会を設定し、理解定着を図る。 □単元に関連した図書や新聞記事などを紹介し、さまざまなジャンルの文章に触れたり読んだりすることで、語彙力・表現する力をつける一助とする。
	3年	全国平均、県平均とほぼ同程度である。 ○思考・判断・表現については、県平均を上回り、全国とほぼ同程度である。 ●知識・技能に関して、県平均、全国平均を下回っている。	□小テストを定期的に行い、家庭学習の習慣化と言葉に関する知識・技能の定着を図る。 □書く活動・ペア、小グループによる話し合い活動を継続し、思考力・表現力の伸長を図る。 □語彙、表現技法、文法等の言語事項について定期的に振り返り、理解の定着を図る。
数学	1年	全体の正答率、基礎の部分では市平均と同等であり、全国平均をやや上回った。活用の部分では、市平均、全国平均をやや上回った。 ○「数と計算」と「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を大きく上回った。 ●平面図形に関する問題の正答率は、全国平均をやや下回った。	□フォローアップシートを活用し、生徒の理解度、つまづきについて確認する。 □家庭学習に継続的に取り組めるような効果的な課題を出す。
	2年	○すべての領域において全国平均の正答率を上回った。特に、「数と式」「図形」は、全国平均の正答率を大きく上回った。 ●文章題から1次方程式を立式する問題、文字式で表された考え方を説明する問題の正答率が特に低かった。	□授業や定期テスト等で、記述式の問題を解かせることを引き続き行う。 □単元の終末では、基本的な計算だけでなく、思考する問題演習に取り組む時間を確保する。
	3年	●ほとんどの領域、観点、問題形式において、全国平均を下回った。特に、「数と式」の領域が全国平均を大きく下回った。 ○無解答率が全国平均と比べると、ほとんどの問題で下回った。記述式の問題でも25%以下にとどまっている。	□プリントやドリルなどを用いた家庭学習の取組を充実させ、知識・技能の定着を図る。 □単純な計算問題だけでなく、文章を読み取る力が必要となる問題を授業の中でも扱う。
英語	2年	全体の正答率は、市平均、全国平均を大きく上回った。基礎・活用の部分では、市平均、全国平均を大きく上回った。 ○聞くことにおいて、市平均、全国平均と同程度。読むことにおいては、市平均を上回り、全国平均と同程度。 ○書くことにおいて、市平均、全国平均を大きく上回った。 ●語彙の知識・理解、長文の読み取りでは市平均と同程度、全国平均をやや下回った。	□小テストを定期的に行い、語彙・文法・語順の定着を図る。 □長文を読み要点を捉える練習、要約する練習を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1年生は「授業で分からないことがあれば先生に質問している」と答えた生徒が国語、数学ともに多かった。 ○ほとんどの生徒が授業をしっかりと聞き、ノートをきちんと取り、授業内容を理解しているという実感をもっている。 ○話し合い活動では、積極的に自分の意見を述べ、相手の考えをきちんと聞いている生徒が多い。 ●2年生では「授業で分からないことがあれば先生に質問している」と答えた生徒がどの教科でも少なかった。	□出雲市が目指す「めあてと振り返りを意識した授業スタンダード」に基づいた教職員研修を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。そのために一人一授業の公開を基本とし行う。 □自分の考えを根拠を明確にして説明する(書く)活動や、自分の考えを具体例を示したり他の意見と比較したりして、わかりやすく伝える活動を授業の中で繰り返し行う。 □一人一台支給されているタブレットの活用を進め、ICT機器を活用した授業についての職員研修を行い、授業改善を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○出された課題やテストの答案の見直しなどを行っている生徒が多い。 ●課題以外の予習・復習などの家庭学習を行っている生徒が少なく、家庭学習の時間が全国、県、市平均より少ない。 ●言葉や図形などのパズルで遊ぶ生徒が少ない。	□「学習の手引き」をもとに、各教科担当で学習の仕方を丁寧に指導する。 □予習・復習につながる授業を設計し、家庭学習に継続的に取り組めるよう指導する。 □家庭学習時間の増加を目指し、家庭生活の見直しやメディア利用時間のルールづくりを行うように働きかける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域が好きだと回答した生徒が多く、地域に愛着をもっている。地域や社会のために何かしてみたいという思いをもっている。	□地域行事に積極的に参加したり、ボランティア活動を行ったりすることを通して、地域の一員としての自覚、貢献意欲を高める。 □ふるさと(平田)や日本の将来を担う人材育成を目指し、「もの、ひと、こと」を活かしたふるさと教育、キャリア教育の充実を図る。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語は、市、全国ともに平均正答率と同程度でした。
 ●1年生の数学は、市の平均正答率を下回り、全国の平均正答率と同程度でした。
 ●2年生の国語は、市の平均正答率を大きく下回り、全国の平均正答率を下回りました。
 ●2年生の数学は、市、全国の平均正答率を大きく下回りました。
 ●2年生の英語は、市、全国の平均正答率を大きく下回りました。
 ○3年生の国語は、県、全国ともに平均正答率を大きく上回りました。
 ○3年生の数学は、県の平均正答率を大きく上回り、全国の平均正答率を上回りました。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全領域において全国平均・市平均とほぼ同等か上回る正答率となっています。特に「書くこと」においては正答率が全国平均を上回っています。 ●「知識・技能」のうちの漢字の読みの正答率は全国平均を上回っていましたが、書きに関する正答率が全国平均を下回っています。	□「書くこと」において、作文を書く機会を増やすとともに、自分の書いたものを推敲する習慣付けを行います。また、よりよい文章にするため、作文を個別に添削します。 □漢字に関する知識・理解を深めるため継続して漢字テストを実施するとともに、漢字の成り立ちや部首といった漢字理解に関する問題にも取り組みます。また、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。
	2年	○「知識・技能」のうち、漢字の読み書きや、言語文化に関する正答率が高いです。 ●領域では、「書くこと」に課題があり、記述の正答率が全国平均を下回っています。また、無回答率が25%と高くなっています。	□漢字に関する知識・理解を深めるため、継続して漢字テストを実施するとともに、語句の意味や熟語の構成といった言語理解に関する問題にも取り組みます。また、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。 □「書くこと」に抵抗感をなくすため、ICT機器などを活用しながら作文を書く機会を増やします。また、その作文を個別に添削します。
	3年	○全領域において全国平均・市平均とほぼ同等か上回る正答率となっています。 ●「読むこと」に関する領域は、全国・県平均を上回っていますが、必要な情報を読み取って要約することにおいて無回答率が15.7%と高くなっています。	□漢字に関する知識・理解を深めるため、継続して漢字テストを実施するとともに、語句の意味や熟語の構成といった言語理解に関する問題にも取り組みます。また、日常生活で使用する漢字の知識の定着を図るため、書取会を行います。 □説明的な文章の学習で、文章の構成、筆者の主張の読み取り、事実と主張の区別を正確に捉えることができるように、設問を工夫し、読み取りの理解を深めていきます。
数学	1年	●全領域でほぼ全国平均・市平均を下回る正答率となっています。 ○領域では、「データの活用」に関する学習に強みがあります。 ●小数・分数の計算、文字式の計算、百分率などの解決に課題があります。	□分数・小数の計算の復習を取り入れながら、学習を進めていきます。 □記述式の問題を出題していきます。 □単元ごとのテストを今後も定期的に行います。
	2年	●全領域で全国平均・市平均を下回る正答率となっています。 ○領域では、「図形」、「正の数・負の数」に関する学習に強みがあります。 ●領域では「文字式」、「データの分布の傾向」観点では「主体的に取り組む態度」に課題があります。	□基本的な知識の復習を多く取り入れながら、文章問題を解く場面を少しずつ設定していきます。 □基礎的な内容を中心とした単元ごとのテストを、定期的に行います。 □記述式の問題を出題していきます。
	3年	○全領域で概ね県、全国平均と同程度か上回っています。 ○「データの活用」の領域では資料の特徴を読み取ったり、資料の傾向を根拠をもとに説明したりすることに強みがあります。 ●「数と式」の領域では、文字を用いて整数について説明したり、目的に応じて式を変形して、成り立つ事柄を説明したりすることに課題があります。	□数と式、関数の領域では、基本的な知識、技能を習得する学習に加え、問題解決する際に数学的な表現を用いて説明できるような課題を設定します。 □問題解決の過程や結果を振り返り、身近な生活場面で役立っていることや利用されている事象にふれ、新たな課題に興味を持って解決できるよう課題を設定します。
英語	2年	●全領域で全国平均・市平均を下回る正答率となっています。 ○領域では、「聞くこと」に関する学習に強みがあります。 ●領域では「書くこと」の観点では「主体的に取り組む態度」に課題があります。	□対話の流れをふまえて適切に応じる力を伸ばすために、即興でやり取りをする活動を増やします。 □授業やテストにおいて、英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で書く機会を増やします。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、話し合い活動でも、協力して学び合う活動ができています。 ○「自分は、友だち・先生・家の人から認められていると思う」「自分のことが好きである」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、学校・家庭から認められているという意識を持つ生徒が多いです。 ●授業でのICT機器の使用頻度が少ない状況が課題です。	□授業において、効果的な「めあて」を提示し、授業の「振り返り」では生徒の理解の把握に務め、次の学習に生かすことのできる授業づくりをしていきます。 □授業において、個人志向の場面やペア・グループ活動の場面を工夫し、個々の学びを深める学習を進めます。その際、考える視点をはっきりと提示し、対話的で深い学びになるような授業づくりをしていきます。 □教員の指導力向上のため、教員同士の授業互見、研究授業の実施、ICT機器活用のための研修・実践共有を行います。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「勉強するときは、集中して勉強している」「家の人から言われなくても、進んで勉強をしている」と肯定的に回答した割合が全国の割合を大きく上回っており、家庭学習を主体的に取り組むことは概ねできています。 ○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」と肯定的に回答した割合が全国の割合を上回っています。 ●辞書(電子辞書含む)、タブレットを利用して家庭学習をしている生徒は、全国の割合を下回っています。	□各学年で行っている自学ノートの取組や定期テスト前の学習計画表の活用を継続し、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図ります。 □各教科で、家庭学習での課題を継続的に出し、学力の定着を図ります。また、課題の内容の工夫に務めます。 □授業においても、参考資料や辞書やタブレットを活用するなど、調べて学ぶを深める学習活動を継続して行います。 □キャリアパスポート等を通じて自己理解を深め、学習への意欲を高められるようにします。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「住んでいる地域が好きである」と肯定的に回答した生徒の割合が全国の割合を上回っています。 ○「学校での出来事を、家の人に話している」「家の人と決めた約束やまわりを守っている」「家の人に挨拶をしている」「家の人と一緒に食事をとっている」と肯定的に回答した生徒が全国の割合を上回っており、家庭のコミュニケーションが図られています。 ●新聞の記事を読んでいる」と回答した生徒は、全国の割合をやや下回っています。	□総合的な学習の時間や学校行事等を通して、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進します。 □ホームページや、学校・学年だより等を通して、地域や保護者への情報発信を積極的に行います。 □学校外においても、地域の方々に気持ちの良い挨拶ができるように継続して指導していきます。 □今年度より新聞を図書室内に配架し、生徒の目に触れやすいようにしています。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立佐田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生は平均正答率は国語は全国や市を下回り、数学の平均正答率は全国、市と同程度であった。
○2年生は平均正答率は国語は全国を上回り、市をやや上回った。数学の平均正答率は全国や市をやや下回り、英語は全国、市と同程度である。
○3年生は国語の平均正答率は全国や県を大きく上回っている。数学の平均正答率は全国や県と同程度である。
○「学校が好きである」「地域が好きである」に肯定的に回答している生徒の割合が多い。
○先生や友達、家の人から認められていると答えている生徒の割合が多い。
○1、2年生は「自分には良いところがある」に肯定的に回答している生徒の割合が全国より多く、3年生は全国に比べやや少ない。
○就寝、起床時刻や、食事をきちんと摂るなどの生活習慣が身に付いている生徒が多い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	●全国平均正答率に対し、教科全体、基礎、活用ともに下回る結果となった。特に漢字を書くことと、インタビューの内容を聞き取る内容において苦手が見られた。 ○説明的な文章の読み取りと文章を書くことにおいては、全国平均を大きく上回っており、思考・判断・表現の観点において力の定着が見られる。	□漢字の小テストに対し、事前の練習において正しく書いて覚えるよう助言をし、継続的に小テストを行って基礎力の定着を図る。 □話し手の意図を意識して話を聞き、内容を適切に捉えること、また、内容に沿った適切な質問を考えるよう、授業中の指示の出し方を工夫し、話し合い活動の機会に指導や助言をする。
	2年	○全国平均正答率に対し、教科全体として上回り、特に活用の力では大きく上回った。特に、説明的な文章の読み取りと文章を書くことにおいては、全国平均を大きく上回った。 ●漢字を読むことは全国平均を大きく下回り、調べたことをスピーチする内容は全国平均を下回る結果となった。	□漢字の小テストを継続して行い、誤答の多かった問題を取り上げて確認を行うようにする。読みと書きを合わせて覚えるよう指導する。 □授業中に個々に考える時間をとり、自分の考えを明確に持つようにする。また、話の内容をふまえて自分の考えを適切に表現できるよう話し合い活動や書く活動の機会を多く設ける。
	3年	○全国平均正答率に対し、教科全体として大きく上回り、特に記述式の問題に対して高い正答率となった。 ●漢字の読み、情報の扱い方に関する事項については、全国平均を大きく下回る結果となった。	□漢字の小テストを継続して行い、誤答の多かった問題を取り上げて確認を行うようにする。生活の場面や他教科との関連を持たせて説明し、幅広い知識の習得につなげる。 □話し合い活動において、意見と根拠、情報との関連を意識して行うよう助言する。
数学	1年	○「データの活用」の領域では、県・全国の平均正答率をやや上回った。 ○「数学の授業で習ったことは、復習をしている」という質問において、肯定的な回答をした生徒の割合が県・全国の平均を大きく上回った。 ●「図形」「変化と関係」の領域では、県・全国の平均正答率をやや下回った。	□「図形」「変化と関係」の内容の理解度を高めるために、ICTなどの視覚支援を行い、視覚的に分かりやすく学習させる。 □文章問題で、文章を式や図に置きかえて表す場面を多く設ける。
	2年	○「図形」の領域では、県・全国の平均正答率をやや上回った。 ●「数学の授業で習ったことは、復習をしている」という質問において、肯定的な回答をした生徒の割合が県・全国の平均を大きく下回った。 ●「数と式」「関数」「データの活用」の領域では、県・全国の平均正答率をやや下回った。	□「数と式」の内容を定着させるために、朝テストや小テストを継続して行うとともに、自力では分からない生徒に対して学力補充を行う。 □前回の授業で扱った問題を小テストで出題することで、復習の習慣を身につけさせる。
	3年	○「関数」「図形」の領域では、県・全国の平均正答率をやや上回った。 ○「数学の勉強が好きであるか」という質問において、肯定的な回答をした生徒が半数以上いた。 ●「数と式」の領域では、県・全国の平均正答率をやや下回った。	□「数と式」の内容を定着させるために、朝テストや小テストを継続して行うとともに、自力では分からない生徒に対して学力補充を行う。 □「データの活用」の内容をさらに伸ばしていくために、ICTなどの視覚支援を行い、視覚的に分かりやすく学習させる。
英語	2年	○「書くこと」の正答率が全国の正答率より大きく上回っている。 ○解答形式では「記述」「短答」の問題の正答率が全国の正答率より上回った。 ○「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の観点の問う問題は全国を上回った。 ●「聞くこと」の正答率が全国の平均正答率より大きく下回った。	□教科書の本文を活用して、概要を捉える活動や文と文の関係を捉えながら読む活動を取り入れる。 □既習の文型や単語を繰り返し活動の中に組み込み、学習内容の定着を図る。 □授業の中にリスニングテストを取り入れ、聞く習慣を身につけさせる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●「主体的態度」の観点の質問への肯定的な回答が全国平均値を下回っている。(1・2年) ○「問題の解き方が分からない時に、あきらめずに色々な方法で考えているか」という設問に対して、半数以上の生徒が肯定的に答えている。(3年数学) ○ほとんどの生徒が、授業中に先生の話をしっかり聞いたり、ノートをきちんととることができていると答えている。	□新聞やテレビ、インターネットなど生活の中から教科と関連する情報を紹介したり、授業の中で新聞記事を活用したりして、社会や教科の学習に対する興味や関心を広げる。(1・2年) □きれいにノートをとるだけでなく、理解につながるような工夫ができるように指導する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○学習場所を決めて、計画を立て、準備をしてから学習に取り組む質問への肯定的な回答が多く、学習に取り組もうとする意欲がうかがえる。(1年) ○タブレットなどのICT機器を活用しながら、楽しみながら学習を進めていると全員が回答している。(3年) ●質問「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」の肯定的な回答が全国平均値を下回っている。(2年) ●教育課程外の学習(そろばん、英検、新聞を読む)に取り組む生徒が少ない。	□自主学習に対するアドバイスをしたり、テスト前には取組表を活用したりして、家庭学習への取り組み方や内容を明確にする。(1年) □デイリーライフを活用し、計画を立てる力を高める。(2年) □各教科の特性を生かしたタブレットの使用法などをしめすなどして、家庭学習が工夫できるようにする。 □様々な検定等の情報を提供する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●公立図書館や塾、家庭教師、通信添削などを利用している生徒が少ない。 ○基本的な生活習慣が確立されており、地域のとの関わりも大きいという傾向が見られる。	□塾や図書館が近くにないという地域性を考慮し、学校での学習で学力がつくよう環境や条件を整える。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生は、国語、数学ともに、正答率が全国平均及び市平均を上回る。
- 2年生は、数学、英語の正答率が全国及び市平均を上回る。
- 3年生は、数学の正答率が全国平均を大きく下回る。
- 1、2年生ともに、「宿題・予習・復習をしている」では、各教科ともに全国平均を大きく上回る。
- 1、2年生ともに「自分が住んでいる地域が好きですか」という質問に対して全国平均を大きく上回る。
- 1、2年生ともに、「家での手伝いをしている」という質問に対しての肯定的回答が少ない。
- 3年生の理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている生徒が、全国平均を大きく上回る。
- 3年生は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の肯定的回答が9割を上回る。
- 3年生は、タブレットやICT機器の活用についての項目が全国平均を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体では全国平均を大きく上回り、良好な状況である。 ○領域「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、全国平均を大きく上回る。 ●領域「読むこと」で全国平均を下回り、特に、問題内容の「文学的な文章を読み取る」で全国平均を大きく下回る。 ●問題内容の「漢字を読む」では全国平均を下回る。	□文学的な文章を扱う際には、登場人物の心情を文章のどの部分から読み取れるかをグループ活動などを通して考えを共有したり、表現の効果について踏まえながら本文を読み解く活動を行ったりする。 □漢字一つ一つの意味を押さえたり、形の似た漢字に注目したりしながら正しい漢字を意識させる指導を行う。
	2年	○全体では全国平均とほぼ同程度で概ね良好である。 ○領域「情報の扱い方」と「我が国の言語文化」において、全国平均を大きく上回る。 ●領域「話すこと・聞くこと」と「書くこと」が全国平均を大きく下回る。 ●「文章を書く」、「記述する」問題で無回答の生徒がいる。	□話を聞くときに、話の構成を考えながらメモを取ることや自分の考えや根拠を書く活動を行う。 □文章を書く時は、先に構成を考え、時間を意識して書く機会を多く設ける。 □さまざまなジャンルの文章を読む機会を設定し、段落の要約や感想記述に取り組むことで読み取る力と表現する力をつけ、自分の考えを話したり、書いたりできるようにする。
	3年	○全体では全国平均正答率を上回る。 ○領域「情報の扱い方」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」で全国平均正答率を上回っている。「書くこと」は、全国平均正答率と同程度である。 ●領域「話すこと・聞くこと」では全国平均正答率を下回る。 ●記述式の問題の場合、全国平均正答率が大きく下回る。	□自分の考えを分かりやすく伝えるように話すことを意識させながら、資料を見ながら目的や場面、状況を設定した言語活動を充実させる。 □資料や話題の展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて、自分の考えをまとめる活動を行う。 □前後の言葉と関連付けながら漢字の学習を行う。
数学	1年	○「数と式」の領域は全国平均を大きく上回る。 ○「変化と関係」の領域は全国平均を上回る。 ○「データの活用」は全国平均をやや上回る。 ○観点別にみても、どれも全国平均を上回る。 ●正答率30%未満の割合が全国よりやや上回る。	□自分の考えを表現できるように、話し合い、数学的に説明する活動を充実させる。 □図形の領域において、合同な図形の性質を理解させ、補助線などのヒントを与えることで平面図形の理解を深める。
	2年	○全体では全国平均とほぼ同程度で概ね良好である。 ○「図形」「データの活用」の領域で全国平均を大きく上回る。 ○問題形式が記述式の場合、全国平均とほぼ同程度で無回答は全国平均を下回る。 ●正答率30%未満の割合が全国より高い。	□自分の考えを表現できるように、話し合い、数学的に説明する活動を充実させる。 □小テストや反復練習を行い、基礎の定着を図る。
	3年	○「関数」領域は全国平均と同程度である。 ●全体では全国平均を大きく下回る。 ●「図形」、「データの活用」、「数と式」の領域は全国平均を大きく下回る。 ●図形の証明問題は4割が無回答であった。	□習熟度別による授業を行い、基礎の定着を図る。 □基本的な計算問題の反復練習を着実にを行う。 □自分の考えを表現できるように、話し合い、数学的に説明する活動を充実させる。 □授業の中で単元ごとに身につけたい資質能力を明確にするとともに根拠を示しながら話したり協働的に活動したりする場面を設ける。
英語	2年	○全体では全国平均正答率を上回る。 ○領域「聞くこと」「書くこと」で全国平均正答率を大きく上回る。 ○領域「読むこと」では全国平均正答率と同程度である。 ○テーマに沿って書く英作文の問題では無回答率が全国平均正答率と同程度である。	□正しい語順や文構造について集中的に指導するとともに、目的や場面、状況を設定した言語活動を充実させる。 □対話文などの短い英文の読み取りを反復練習し、英文から情報を得ることに習熟させる。 □テーマに沿って書いて自己表現する場面を多く設定し、英語で表現することへの意欲を喚起する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1年生は、多くの項目において全国平均を上回る。 ●1年生は、授業中で自分から質問をする生徒が全国平均よりも下回る。 ●2年生は、全体的に授業以外の場面で学習した内容の活用をしていない生徒が多い。 ○3年生の理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている生徒が、全国平均を大きく上回る。 ●3年生は、タブレットやICT機器の活用に関する項目が全国平均を下回る。	□授業の中で単元ごとに身につけたい資質能力を明確にするとともに根拠を示しながら話したり協働的に活動したりする場面を設ける。 □授業内容と日常生活とを関連付けできるようにする。 □1学期から取り組んでいるICT活用のガイダンスや授業を継続的にを行い、タブレットやICT機器を使う機会を増やす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1・2年生は、「宿題・予習・復習をしている」の質問に対して、各教科ともに全国平均を上回る。 ●2年生は、「平日授業以外の学習時間が1時間程度している」生徒が半数を占めているが、残りは30分以下という結果である。 ●2年生は、全体的に「宿題はきちんとしている」に対して肯定的回答が多いが、中間層、下位層の「予習復習」の肯定的回答が少なく、教科によるばらつきがある。	□定期テストだけでなく、小テストや実技テストなど生徒自身が学びの状況を見取ることができるものを示すことで自己課題化を図る。 □宿題以外の学習を各教科や自学で取り組ませる。
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	○1年生は、「家族に認められている」と感じている生徒が多い。 ○1・2年生は、「自分が住んでいる地域が好きである」という質問に対する肯定的回答をした生徒が全国平均を大きく上回る。 ●1・2年生は、「家での手伝いをしている」の肯定的回答が少ない。 ●2年生は、「地域の行事に参加している」の肯定的回答が少ない。 ○3年生は、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の肯定的回答が9割を上回る。	□現在取り組んでいる「チャレンジ週間」の取組を継続することでよりよい基本的な生活習慣の形成や家族の一員としての自覚を促す。 □引き続き、ボランティア活動の紹介をすることや総合的な学習の時間の中で地域のことを知る時間を設けるなど、積極的な参加を推進する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- ・(1年生)国語、数学とも、全国・市と同程度である。
- ・(2年生)国語は全国をやや上回り、市と同程度であった。数学は全国・市と同程度、英語は、全国・市を上回っている。
- ・(3年生)国語全国・県をやや下回り、数学は全国・県を大きく下回っている。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた生徒の割合が高い。
- 全体的に記述式の問題の正答率が低い。語句理解、内容理解、解答速度に課題が見られる。
- 平日の家庭学習の時間が、30分以内と答えた生徒の割合が高い。
- メディアに触れる時間は長いが、ニュースや情報番組は視聴していない割合が高い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全ての観点別正答率が全国平均を上回ったが、市町村平均と比べると、やや下回っている。 ○領域別正答率は上回る結果もしくは同等だったが、特に「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を大きく上回っている。 ●「漢字を書く」「文章を書く」が全国平均を下回っている。	□毎回の漢字の小テストで「書き」の問題を増やしていく。 □「文章を書く」ことにおいて、自分の考えが伝わる文章が書けるようにするために、根拠を明確にして書く活動を日々の授業に取り入れていく。
	2年	○領域別正答率の「書くこと」が、全国平均を大きく上回っている。 ○問題の内容別正答率の「文章を書く」と「漢字を書く」と「文学的な文章の内容を読み取る」が、全国平均より大きく上回っている。 ●領域別正答率の「我が国の言語文化に関する事項」が、全国平均をやや下回っている。 ●問題の内容別正答率の「漢字を読む」について全国平均を下回っている。	□言葉の意味を確認しながら、漢字を読むことを行う。 □家庭学習での反復練習を行い、言語文化に関する基礎基本の定着を図る。
	3年	○「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均よりも大きく上回っている。 ○「書くこと」は同程度である。 ●「話すこと・聞くこと」「読むこと」の分野が、全国平均を大きく下回っている。	□発表の際に、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができているかどうか、考える学習活動を行う。 □話題や展開を捉えながら、他者の発言も受けて、自分の考えをまとめるような学習活動を行う。 □目的に応じて必要な情報に着目して要約する活動を授業に取り入れる。
数学	1年	○市平均との比較では、すべての領域・観点において同程度、全国平均との比較では、数と計算、データの活用、知識・技能でやや上回り、他の領域・観点では同程度である。 ○単位数あたりの大きさ、平均・場合の数については、市平均、全国平均を上回っている。 ●比と比例・反比例では、市平均を下回っている。 ●根拠に基づいて記述で説明する問題が全国を大きく下回っている。	□比と比例・反比例について、考え方を丁寧に確認し、繰り返し問題演習を行い、定着を図る。 □自分の考えを、根拠となることを明確にして記述・発表させる場面を意図的に取り入れる。
	2年	○知識・技能の観点別正答率は、市平均・全国平均と同程度である。 ○空間図形については、市平均・全国平均と同程度である。 ●数と式について、市平均より下回っている。 ●文字式を使って説明する問題では、無回答の割合が高く、全国正答率を大きく下回っている。	□課題テストや小テストを実施し、それにむけての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □数と式の問題は、1年から3年までつながる内容であることをおさえ、既習事項と関連づけながら基礎の定着を図る。 □説明する問題では、手順やポイントを提示し、手順に沿って繰り返し練習したり、生徒同士で説明しあったりすることで力を身につける。
	3年	○関数の領域について、県平均と同程度である。 ○特に一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける問題では、全国平均と同程度である。 ●数と式の分野の正答率が、県平均・全国平均を大きく下回っている。 ●特に整数nを使って連続する偶数を表す問題において、正答率が低く、無回答の割合も高い結果となった。	□課題テストや小テストを実施し、それにむけての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □生徒同士の教え合いの時間を設け、対話を通して理解を深めていく。 □整数を使った問題において、具体的な数値を代入して数のイメージをもちながら取り組むことで文字を使った問題への理解を深める。
英語	2年	○観点別正答率では市・全国の平均よりも高かった。特に領域別正答率では、「書くこと」の正答率が高かった。 ○単語の並び替えや自分の考えを表現するなどの英作文の正答率が市・全国平均よりも大きく上回っている。 ●様々な英文の聞き取り(リスニング)に課題が見られる。 ●メール文を読み、内容理解はできているが、要点を捉えたり代名詞がさす内容を答えたりする問題の正答率が全国平均より下回っている。	□授業での言語活動では、自分の考えや意見を生徒同士で伝えあう活動を設定し、それを表現するといった話すことと書くことにつながりを持たせる活動を行う。 □「聞くこと」に関しては、日常的に英語の対話やスピーチなどを聞く活動を取り入れる。 □「読むこと」に関しては、長文を読み大まかな内容理解だけでなく、要点を捉えさせたり、読んだ内容をまとめたりなどの発展的な学習を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業で分からないことがあれば、先生に質問している」と答えた生徒の割合は、全国平均よりも大きく上回っている。 ○「話し合い活動で、自分の考えを積極的に話している」、「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」と答えた生徒の割合は、全国平均よりも大きく上回っている。 ●授業で、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動ができていないと答えた生徒の割合は全国平均より大きく上回っている。	□話し合い学習で積極的に自分の考えが出せるように、ペアや小集団の話し合いを増やしたり、話し合い学習での約束事をつくったり、役割を決めたりするなどして、積極的な話し合い活動になるように工夫する。 □進路学習を計画的に進め、生徒自身が自分の将来について考える機会を設け、進路意識を高め学習意欲の向上につなげる。 □生徒はICTを使用した学習について意欲的である。加えて調べ学習や教科の学習に関連した図書を用意し、生徒自身が主体的に媒体を選択して学習ができるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1, 2年生は「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、「授業で習ったことは、復習している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ●平日の家庭学習の時間が、30分以内と答えた生徒が65%を超える。1時間以内と答えた生徒を合わせると、85%を超える。 ●「勉強に役立つテレビ番組を見ている」、「新聞の記事を読んでいる」、「本を読んでいる」と答えた生徒の割合は、全国平均を大きく下回っている。	□授業で時事問題に興味関心を持たせられるよう、新聞記事を読む学習を取り入れたり、社会のニュースについて関心を持つような学習や活動を行ったりする。 □家庭学習の習慣がつくように、1年時からの指導を工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた生徒の割合が高い。 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに「当てはまる」と答えた生徒が全国平均より大きく上回っている。 ●「平日のメディアの使用時間」についての質問で、市の平均利用時間を大きく上回っている。	□家庭とも連携しながら、自分のメディアへの接し方について考える学習を行う。 □総合的な学習の時間に行うふるさと学習を通して、地域についての理解を深めるようにする。自分の住んでいる地域だけではなく、他地域に目を向ける学習も取り入れることで、自分の地域と比較し、よさや魅力を発見できるような学習を取り入れる。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川東中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学力調査) ○1年生の国語・数学の正答率は、ともに市・全国平均を上回っている。 ●2年生の国語の正答率は、全国平均はやや上回り、市平均はやや下回っている。数学・英語の正答率は、市・全国平均ともに下回っている。 ○3年生国語では書くこと・読むことは、市・全国の平均を上回っているが、話すこと・聞くことにおいてはやや下回っている。無回答率はどの項目でも市・全国平均を下回っている。数学は全ての項目で市・全国平均ともやや上回っているが、問題解決方法を数学的に説明する問題や筋道を立てて証明をする問題においては平均よりも無回答率が高かった。 (学習状況調査) ○基本的な生活習慣や家庭学習の習慣、学習活動に関する質問に対しては、概ね良好な回答状況である。 ○「自分のことが好きである」や「自分には、良いところがあると思う」と回答した生徒が全国平均を大きく上回っており、「友達や先生、家の人から認められていると思う」の割合も高い。 ●1、2年生ともに「本(マンガや雑誌を含まない)を読んでいる」や「新聞を読んでいる」生徒の割合が、全国の平均をかなり下回っている。	
---	--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○概ね全国平均と同程度か上回る正答率である。 ○条件にしたがって自分の考えを書く問題で、全国平均正答率を大きく上回っている。 ●小学校で学習した漢字を正しく読んだり書いたりする問題で、全国平均正答率を大きく下回るものがある。 ●文学的な文章の内容を読み取る問題で、描写をもとに登場人物の心情を捉えることに課題がある。	□授業での小テストや全校漢字テストの取組を継続し、基本的な漢字の読み書きの定着を図る。また、文章中の言葉の意味や言い回しなどについて授業の中で積極的に取り上げ、言葉の幅を広げられるようにする。 □登場人物の心情などを読み取る際に、根拠となる描写を探してそれをもとに考える力をつけられるよう、授業展開や発問を工夫する。
	2年	○昨年度(1年時)は市・全国平均とも1～2ポイント以上下回っていたが、今回は市平均はやや下回ったものの全国平均はやや上回るという結果となり、課題であった基礎力の向上は認められた。 ●文法の問題や、複数の情報から必要な情報を選び出して考える活用力を問う問題での正答率が低い。	□漢字は、引き続き授業での小テストや全校漢字テストの取組を通してさらに定着を図っていく。また、文法など言葉の力をつけていくために、授業中に復習する時間を随時取り入れる。 □情報を比較検討して必要な情報を選んで考える力をつけるために授業での教材の扱い方や授業展開を工夫する。
	3年	○ほとんどの設問で県・全国平均と同程度か上回る正答率である。 ○思考力・判断力・表現力等の中で、書くこと・読むことは県・全国平均を大きく上回っている。 ●話し合いの話題や発言の意図を捉える問題や、それをもとに自分の話す内容をまとめる問題での正答率が低い。	□授業での小テストや定期テストへの取組、授業中での文法の復習、言葉の意味調べを通して言葉の幅を広げ、表現力を伸ばしていく。 □複数の情報から必要な情報を選んで考える力をつけるために、教材である文章の比較検討をし、そこから自分の考えをまとめていくような授業構成や展開を工夫する。
数学	1年	○全体的に市・全国平均を上回っていた。 ●記述に対して苦手意識がある。目標値を大きく下回っている。 ●単位数あたりの大きさ、百分率の単元の正答率が低い。特に百分率の単元は全国平均を下回っていた。	□授業で単位の変換や割合を求める問題を多く扱う。特に割合に関しては図やグラフを用いて視覚的に理解しやすくなるように授業を行う。また、図やグラフは生徒にも考えさせ自分で情報を整理する力をつけさせる。 □授業の中で、説明する場面を多く作る。また、生徒の発言に対して問い返しを行い、自分が行った計算や考えを文章化させる。
	2年	○文字式、平面図形の問題は市及び全国平均を上回っている。 ●比例・反比例の正答率は平均を下回っている。 ●文章を読んで立式したり、理由を説明したりする問題の正答率が低い。	□既習事項を確認しながら授業を進め、基礎・基本の定着を図る。 □文章問題や記述問題に触れる機会を増やす。ペアやグループで説明しあう活動を日常的に取り入れる。
	3年	○関数やデータの活用の前平均正答率が全国平均を上回った。 ●記述式の問題で、無回答率が40%を超えた問題があった。 ●数と式の平均正答率が全国平均を下回った。特に、文字を使って数量を表す問題に課題がある。	□授業のはじめのフラッシュ計算や授業中の既習事項の確認など、習ったことを繰り返し確認する機会を増やす。 □記述問題を取り扱う時に、記述するポイントを示しながらくり返し伝える。
英語	2年	○3文以上で英作文を書く問題では平均正答率が全国平均を上回った。 ●英文や表などから内容を理解し、必要な情報を読み取ることに課題がある。 ●やりよりの英文を読んで、答えから質問を考えることや、正しくその英文を書くことに課題がある。	□英文や表、グラフなどから必要な情報を読み取る形式の問題に慣れさせるために、そのような問題を授業や課題を通して扱っていく。 □QandAなどを通して質問に対する答えを英語で返すことには慣れてきているが、逆に答えから質問内容を考える活動もこれから意識して増やしていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年生の国語では「話し合いで相手の話をしっかりと聞き取っている」、「伝えたいことを明確にして文章を書いている」が全国の平均を上回っている。 ●2年生国語・数学では、分からないことがあれば先生に質問している割合が全国を大きく下回る。1・2年生ともに「分からない言葉があると、辞書を引いている」割合が全国平均を下回る。	□教科等の授業は、これまでと同様短時間でも話し合いを取り入れるようにする。また、学校行事を成功させるための学級全体での話し合い活動でも、目的や意図を明確にしながら計画的に取り入れる。 □生徒が自ら調べたり、考えをまとめたり、友だちと考えを共有したりするための手段として、ICT機器を積極的に活用する。また、教科間、学年間でも活用方法について情報を共有し、生徒の深い学びにつながるよう、学校全体として取り組んでいく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	●1年生の平日家庭学習時間は、1時間から1時間30分までの生徒の割合は全国の平均を上回っているが、2時間以上になると下回る。2年生は30分から1時間くらいの生徒の割合は全国の平均を上回るが、1時間30分以上になると下回る。	□生徒会活動として行っている学習時間調査や、定期テスト前には生徒自らが考えた予想問題にクラス全員で取り組む「一問入魂」活動は今後も継続して行う。 □各教科や学年で、効果的な復習の仕方や自主学習ノートへの取り組み方を助言する。 □テスト前などに学習計画表を配付して生徒自ら勉強計画を立てさせ、それを毎日担任がチェックしながら見通しをもった学習ができるよう支援する。また、保護者にも協力してもらい、勉強頑張れコメントを書いてもらうなど、生徒の意欲付けにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答した生徒の割合が極めて高く、3年生は地域のためになにかしてみたいと回答する生徒の割合も高い。 ●家の手伝いをしている(ゴミ出し等)と回答した生徒の割合が平均を下回っている。 ●「新聞の記事を読んでいる」と回答した生徒の割合が平均をかなり下回っている。	□地域の歴史文化を自ら調べ、地域のよさを実感する学習の場として、「ふるさと学習」の内容に工夫を加えながら継続し、調べたことや見聞を広めたことをICTを活用してまとめる。 □地域の祭りや清掃活動、地域でのボランティア活動などについて、生徒会を中心に全校生徒に呼びかけ、積極的な参加を促す。 □時事に関心をもつことができるよう、朝終礼で生徒が新聞記事に関するスピーチを行ったり、担任が関連するニュースについて話題を取り上げたりする。また、昇降口に新聞を置き、生徒が気軽に読める環境はこれまで通り継続する。

令和6年度(2024)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年 出雲市学力・学習状況調査】
○教科の正答率が全国平均正答率と比較して、国語は同程度、数学はやや上回った。
【2年 出雲市学力・学習状況調査】
○国語・数学・英語ともに教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。
【3年 全国学力・学習状況調査】
○教科の正答率が全国平均正答率と比較して国語はやや上回り、数学は同程度であった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「漢字を読む」は出雲市・全国平均をやや上回る。 ●「文学的文章の読み取り」は出雲市・全国平均を下回る。 ●「漢字を書く」は出雲市平均を下回る。	□漢字の確認テストを行う。 □文学的文章において、表現が読み手に与える効果について指導を行う。
	2年	○「文学的文章の読み取り」は全国平均を大きく上回る。 ○「説明的文章の読み取り」は全国平均を上回る。 ●「文章を書く」は出雲市・全国平均を大きく下回る。	□100～200字程度の課題作文を授業で実施する。 □自分の考えを明確にして書くことについて指導する。
	3年	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を大きく上回る。 ○「読むこと」は全国平均を大きく上回る。 ○短答式および記述式問題の正答率は全国平均を大きく上回る。 ●「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや下回る。	□聞き取ったことをもとに自分の意見をまとめる学習を行う。 □自分の考えを筋道立てて話す活動を行う。
数学	1年	○すべての観点における正答率が、全国平均と比べて同程度である。 ○「数と計算」、「変化と関係」の領域における正答率が、全国平均と比べてやや上回る。	□基礎的な力を身につけさせるため、授業や家庭学習に反復練習を取り入れる。 □タブレットパソコンのタブドリLive!を活用して、復習や基礎・基本の定着を図る。
	2年	○すべての観点における正答率が、全国平均と比べて同程度である。 ○「データの活用」の領域における正答率が、全国平均と比べて大きく上回る。 ●「図形」、「関数」の領域における正答率が、全国平均と比べて下回る。	□基礎的な力を身につけさせるため、授業や家庭学習で反復練習を取り入れる。 □ICT機器を活用して、図形やグラフを提示することで、視覚的な支援を行う。
	3年	○「図形」の領域における正答率が、全国平均と比べて大きく上回る。 ●「数と式」の領域における正答率が、全国平均と比べて下回る。	□教具等を工夫し視覚に訴えることで意味理解を助け、単なる解法の理解にとどまらないようにする。 □既習事項を定着させるため、間隔を置いて繰り返し復習する機会をもつ。
英語	2年	○「聞くこと」について、概ね全国平均と同程度である。「対話文の応答」が全国平均を大きく上回る。 ○「読むこと」について、対話文の「語形・語法」、「語彙の知識・理解」が全国平均を上回る。 ●「読むこと」について、「メールの概要をとらえて英文を完成させる力」が全国平均を大きく下回る。 ●「書くこと」について、「3人称単数現在形の一般動詞の変化」が全国平均を大きく下回る。	□まとまりのある文を書くことに慣れさせるために、モデル文をまずはたくさん書き、語彙を入れ替えるなどして、英文のパターンを身につけさせる。 □基本文マスターのジャンプ問題を活用して、スモールトークでやり取りを行った後、自分のことについてまとまりのある英文を書く活動を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1・2年生では「授業中のICT機器(タブレットパソコンなど)の使用が週に数回以上」という生徒が出雲市の平均を上回っている。 ●3年生では授業でのタブレットパソコンの活用が全国平均と比べて少ない。 ●1・2年生ともに「わからない言葉があれば、辞書を引いている」が全国より10%以上下回る。また「国語や数学の授業でわからないことがあれば先生に質問をしている」生徒が全国平均と比べて低い。 ○3年生では「話し合う活動を通じて考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と答えた生徒が県・全国平均を大きく上回る。 ○1・2年生では「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」生徒の割合が、出雲市平均を上回る。	□わからないことをそのままにしないよう、自分で調べたり先生に聞いたりなどして解決する力をつけるような指導を工夫するとともに、学習の目標(めあて等)と振り返りを意識した「わかる授業」への改善をすすめる。 □一斉学習、個別学習、協働学習の各場面、ICT機器を効果的に活用して、授業改善に取り組む。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	●1年生では「学校に行く日、学校の授業時間以外に1日にする勉強の時間」は約4割が1時間未満である。2年生では、「家庭学習をほとんどしない」と回答している生徒の割合が出雲市平均を大きく上回る。3年生では平日2時間以上学習している生徒の割合が全国平均より大きく下回る。 ○1年生は「家の人から言われなくても進んで勉強している」生徒が全国を13%上回る。 ○2年生はICT機器を利用した学習に取り組む割合が出雲市平均を上回る。 ○3年生は普段(月～金曜日)1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴、ゲームをする生徒が全国平均を大きく下回る。 ●3年生は家庭でICT機器を勉強のために使う時間が全国平均を大きく下回る。	□「学習のしおり」をもとに学習のしかたを指導し、家庭学習とつながる授業づくりを進める。適度な分量で家庭学習ができるような課題を各教科で出す。 □引き続きタブレットドリルを中心に家庭学習を増やしていく。 □生徒がタブレットパソコンを主体的に活用できるよう、使い方の指導や課題の出し方を工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○3年生では「地域や社会をよくするために何かしたい」「人のために何かしたい」という生徒が県や全国平均と比べて多い。 ○1・2年生ともに「住んでいる地域が好き」と答える生徒が、全国平均を上回る。 ○1年生では「地域の行事に参加している」生徒の割合が、全国平均と同程度である。	□コミュニティセンター等と連携して、地域の行事やボランティア活動への参加を呼びかけ、社会や地域とのかかわる機会をつくる。 □学校便りおよび学年通信を発行し、家庭や地域との連携を図る。